



# 共済福祉会だより

社会福祉法人 共済福祉会 発行責任者 石津博士  
 住所 静岡県田方郡函南町平井717-2 TEL 055(978)4100  
 ホームページ <http://kyosaifukushikai.jp/>  
 e-mail:info@kyosaifukushikai.jp



共済福祉会 伊豆総合福祉センターから見た「朝日に輝く富士山」(2010.01)

## 謹賀新年



理事長  
石津博士

新年明けましておめでとうございます。本年も皆様にとってよき年でありますよう祈ります。また、旧年中私ども共済福祉会に賜りましたご厚情に感謝申し上げますとともに本年も引き続きよろしくお願い致します。

さて、昨年は歴史的な政権交代があり、医療・介護・福祉などの社会保障制度も従来方針の見直しが進められています。介護事業に携わる法人としては、国の政策・施策と密接な関わりがあるだけに大いに期待しつつも、かたや財源問題もありその具体的施策展開をも注視した機敏な事業運営が必要であります。一方、平成一二年に介護保険制度の導入など介護保険法が改正され今年で一〇年を経過しました。また、障害福祉においても障害者自立支援法の施行など急激な変化がありました。

この間、改正法等の理念である利用者本位、人間尊重の介護サービス提供へと改善・改革ができていくが、国の政策見直しと合わせて私たちが

業者自らも振り返り不十分な点は更なる努力を行うことも合わせて必要であります。

当共済福祉会も今日まで、介護の社会的重要性を認識しサービス内容の充実や体制の強化を図ってきました。その状況を今年は、福祉サービス第三者評価機関の審査を受け全体の手エックを行うこととしています。その結果不十分な点は徹底した改善を行いサービス内容の改善・充実を図ることで利用者本位の満足度を更に向上させていきたいと思っております。

また、もう一つの取り組みとして、平成一八年度から五年を展望した第一次中期経営計画は、所期の目標をほぼ達成できたことから、一年前倒しして平成二二年度から三年間を展望した第二次計画を策定しその実現を目指すこととします。第一次は、「自立した経営の確立」を目標としましたが、第二次は、「地域とのつながりを大切にしたい事業運営の推進」を中心に検討を深めています。これは、公益性を求められる社会福祉法人の社会的役割を強く意識した取り組みが求められているとの思いからであります。

今年も取り巻く環境の変化は激しいと思いますが、『常に真心込めた心温まる介護』を旨に職員一同精進する所存でございますのでよろしくお願いたします。

### 高齢者福祉部

二〇一〇年  
新年のご挨拶

高齢者福祉部長

宮本良美



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様方にとりまして新しい年が平和で穏やかな年となりますようご祈念いたします。

今年は例年になく、大きな変動のなかで新しい年を迎えました。

昨年は、世の中が大きく変化し、まさに激動の年でありました。この流れは本年も続きそうです。

干支で二〇一〇年を見ますと、「庚寅」に当たります。

庚は新しいものに改まっていくこととする状態を表し、寅は動きが活発になる状態を表

すといわれています。

まさに新たな動きが顕在化される年回りのようです。

介護現場に目を転ずれば、昨年の介護保険制度改定は、人的な体制加算が主で、いかに人を確保するかが加算取得の大きな鍵となつています。

人材確保に必要ないい施設の条件は、多くのことに挑戦し、職員一人ひとりの向上心がごく自然に継続されている施設だと思えます。それには職員一人ひとりが努力を怠らず、新人・中堅・ベテランがそれぞれの持ち場でサービス向上のアクションを起こし続けることだろうと思えます。

例えば、サービスの質の向上を目指したグループ研究活動の充実、自己目標の設定による自己実現への挑戦と目標達成による現場力のレベルアップ等です。

世の中の動きに惑わされることなく、着実に歩を進め、これまで育ててきたものを確かに開花させながら、「脚下照顧」を旗印に高齢者部職員一同取り組んでまいります。

### 夫婦って素敵

ほほえみ居宅介護支援事業所  
ケアマネジャー 大島真純



私が担当している一人暮らしのあるご夫婦の話です。

羨む程仲の良いご夫婦で、お互いを支え合い穏やかに過ごしていました。

そんな中、突如過去の事で口論になり、次第に会話も減り、時にはお互いを傷つける事もありました。

そんな日々が続いた昨年晩秋、ご主人から「ラジオを聴いて」と一本の電話があり、指定の日時にラジオを聴くと、ご主人が投稿した内容が放送されました。

奥様との出会いや感謝の気持ち等、時を越えたラブレター

が読まれ、奥様に捧げる一曲のクラシックが流れました。ダンスのパートナーは貴方だけ」と想いを馳せる優しく穏やかな曲でした。ご主人の演出に思わず口元が緩み、時の流れも穏やかに感じました。

後日訪問した際の二人の照れ笑いが、夫婦の絆を更に強めたことを教えてくれました。私は、波乱万丈の人生を歩んだお二人のこれほどまでの心の豊かさに、心が奮え、涙を堪えるのが精一杯でした。支える人が側にいる夫婦って素敵ですね。

### こえぐねぐが？

伊豆白寿園  
看護担当係長 齋藤美和



あけましておめでと〜ござい

毎年お正月を迎えると、思

雪の降り積もる山形で、両親、兄弟、祖父母、親戚が大勢集まり、温かいこたつに入って、お雑煮やみかんを食べ、楽しく過ごしたことです。

今では、両親も亡くなり、お正月にはしばらく帰省していませんが、両親の愛情で育んでもらった故郷は、いまでも心の拠り所です。

白寿園の利用者にも東北生まれの方が何人かおられます。故郷を離れ、何十年の月日が経ちますが、日常会話に自然とお国訛りが出てきて懐かしさを感じます。

普段は寝たきりで、自分から話されないTさん、「こえぐねえが？」(身体は辛くないですかの意)と声をかけると「こえぐねえ」と笑顔で答えてくれます。

これからも利用者の心と身体を十分理解し、くつろぎとやすらぎを感じてもらえるような生活の場を提供し、その人らしい生活を送っていただけるよう、お手伝いさせていただきます。

障害者福祉部

新春を迎えて

障害者福祉部長

矢野 秀男



平成二十二年も幕明けし、よい年をお迎えただけましたでしょうか。

大寒波が来ると予想され風が強かった年末年始ではありましたが、皆様には、穏やかなお正月を迎えられたことと思います。

昨年、日本政界においては自民党から民主党鳩山政権への交代があり「チェンジ」の年でした。政権交代したことにより、世の中が好転へと変化し景気も回復するであろう等の期待感を持ったことと思えます。

政権交代後百日がたったとは言え、そう簡単に変化することはありません。不況風は

鳴り止まず、株価の暴落、景気の低迷、人員削減などいやなニュースが多かった年であったと思います。

しかし、悪いことばかりではありません。箱根駅伝では昨年に続き箱根の山登り五区に「山ノ神降臨」のごとく疾走した東洋大学二年生、柏原竜二選手がトップとの差四分以上を撥ね返し、芦ノ湖にゴールした時には逆に三分半以上の差をつけ、見事連続の総合優勝への道筋をつけ、チーム全体の士気高揚と、見ていた者すべてに感動を与えてくれました。優勝後のインタビューでは一人のヒーローだけではなく、チーム全体の信頼感による結束力が感じ取られ、総合力による優勝であること、そしてチームを支えた周りの人々への感謝の気持ちが伝わり、新年のすがすがしさをさらに感じました。

私たち障害者福祉部職員も新年にあたり、各事業所が事業計画そして共済福祉会のビジョンに沿った事業を展開し、利用者をはじめ地域の皆様へ信頼され、喜んでいただける事業所となるよう支援に努めてまいります。

パワーをもらったアレンジメント作り

伊豆ライフケアホーム  
ケアワーカー 金子 早苗

十二月十六日、忘年会に飾るクリスマスフラワーアレンジメント作りが行われました。毎年、田方農業高校の先生と生徒さんが来所され、利用者と一緒にオアシスに花を生けていきます。



利用者のみなさんはたくさん生徒さんに囲まれてとても嬉しそうでした。自己紹介から始まり、緊張していた様子で声が出ない利用者もいましたが生徒さんの優しい声かけですぐに笑顔になりました。

生徒さんと話をしながら花を生け、最後にメッセージカードも一緒に作りました。ボランティアさんが用意してくれたお花もあり、とても豪華にできました。

地域の方と触れ合うことのない利用者も、しかも高校生となれば「若いパワーをもらった!」と喜んでいました。高校生にもライフケアホームのことを知ってもらおう良い機会になったと思います。利用者が外に出る機会は少ないですが、これからも地域の方に来てもらい触れ合う機会を多く作っていきたいと思います。

「希望(のぞみ)会」

伊豆リハビリテーションセンター

利用者 白田 典行

やはり希望会は、今年一番盛上ったイベントでした。

会場になった機能回復訓練室は、クリスマスムードに満ち溢れ、飾り付けも立派!テーブルには、ご馳走が並び、招待客のあいさつが終わると、乾杯の音頭で宴に突入。豪華な食事や、たまぐに飲むアルコールを楽しむ中、ハーマモニカ

ランティオの方による演奏が始まり、照明が落とされて、幻想的なハーマモニカとイルミネーションのコラボを楽しみました。

イントロクイズでは、トラブルが発生しましたが、伊豆病院院長の黒澤先生の十八番「エイトマン」の振り付き熱唱で救われ無事終了。続く恒例



のビンゴでは、ほとんどの人が商品を手に入れたようでした。施設長の締めあいさつは、妖しげなパフォーマンス付き万歳三唱で、笑いの渦の中お開きとなりました。

では わたしも「伊豆リハ 万歳 バンザイ バンザイ!」

### 自立に向けての支援

伊豆リハビリテーションセンター

ケアワーカー係長

長谷川美恵子

元旦の朝「あけましておめでとございませう」と挨拶をかわし、利用者の気持ち良さそうな笑顔をみながら介助入浴が始まりました。



新年を施設で迎える方が多く、お正月気分をのんびりあじわっていたただけるように努めてきました。

私がリハビリテーションセンターに配属されてから、多くの利用者が在宅・他施設へと生活の場が変わり、借別の思い出とともに、新入所の方々と新たな出会いも生まれま

個人のこころと体の歴史、文化、社会環境の影響を受け、一人ひとりの価値観、考え、障害の受容も違い、こころを開いていただけない事も、介護の難しさを実感する事もありました。

リハビリテーションセンターは「自立」をめざしています。自立はすべて自分で出来るようになることではありません。自分の出来る事を増やし、生活の質を高めることが重要なことです。

障害の重い人でも日々の生活のなかで、家族・友人の協力や公的な福祉サービスを活用することにより楽しい生活を送れるようになります。必要なサービスを適切に依頼できるよう社会生活力の向上をめざしています。

利用者が自分の能力や長所に気づき自信が持てるようになりニーズを満たす為に主体的に取り組めるよう支援していきたいと思っています。

私たちは専門職として知識・技術・態度の向上をめざし、よりよいサービスを提供できるように努力していきます。

### ◆年男・寅・年女◆

#### 新年を迎えて

伊豆白寿園

担当係長 田中博恵

あけましておめでとございませう。



今年は何回目かの年女。

月日が経つのは早いものです。

「寅年」と言いつつすべし「象の寅か」と言われます。

歳のせいかわ少々我の強い面は認めますが、気弱でのおんきなトラ猫です。しかし、大切な利用者をお預かりしているのですから、寅にあやかり、勇猛果敢にトライし、幸せな年となるよう職員一同頑張ります。

#### 今年の抱負

伊豆リハビリテーションセンター

リハビリ係長 山口和久

生まれてから四回目？の干

支を迎え、すでに人生も四分の三が経ってしまったかと思



と哀しくもあり、また焦りも感じつつ、人生後半の大事な佳節と捉えて、自分にとっての仕事、そして日常生活の中において、一つでも多くの成果や結果を出していけるよう努力し、最高の一年にしていきたいと思

#### 寅年を迎えて

ほほえみ居宅介護支援事業所

ケアマネジャー 早崎万由美

そろそろ「天命を知る」年齢となりますが、仕事・子供の就職・親の介護と課題も山積み。



一茶の句に「うれしさも中くらいなりおらが春」とあります。無理をせずマイペース

で頑張ろうと心新たにしています。

#### 毎年の抱負、スマートに！

相談支援事業所 リベルテ

相談支援専門員 竹村聖一郎

今年、相談支援専門員として、贅肉ではなく、知識・技術を身につけ、みなさんの相談にスマートに答えられる様、大変身と行きたい！。

昨年は、ラーメンの食べ歩きが過ぎ、「ぽっこりお腹に大変身！」。



今年こそは、運動不足を解消し、「すつきりお腹に大変身！」と毎年思いつつ、正月太り…。本年もよろしくお願ひ致します。

#### ◆編集後記◆

「朝日に輝く富士山」一画写真

毎年、冬のこの時期になると、冷たく澄み切った、凜とした早朝の空気の中、南箱根連山から昇る朝日に輝く富士山が暗闇の中に赤く浮かび上がります。